

一般市民諸君に訴ふ

皆さん。皆さんは、近頃毎日新聞紙に報導されて居る、芝浦製作所の労働争議を御存じご思ひます。若し御存知であつたら、此の不景氣に何故平常貯蓄もない、また賃金も低い労働者が、萬一間違へば業を失ひ、争議中の日給を借金に背負ひ込んで首に幾重の苦をうけなければならぬ、やうなことをするんだらうと云ふ疑問がお浮びになりませんか。

先づ、此の疑問に對する最善の、お答は、芝浦争議の大體の原因、経過をお話することだと思ひます。大體、芝浦製作所は、皆さんも御存知の日本の大金持三井一家で經營して居る會社で、且つ、政治的には政友會の背景を持つて居る日本有数の有富な會社なのです。あの大地震の影響を多大に受けた直後に於てさへも、日本の工業界に於ける最高率の利益配當をしてゐるのを見ても、どれぐらい利益の多い會社かと云ふことがおわかりになる筈です。

且つ、最近、鶴見に東洋一と誇る新工場を建てつゝあるのです。かやうに利益の多いのにも拘らず、會社が一般賃金の引下げを行ふとしたのです、それには、平常、労働者の生活向上を口にする職工や會社の態度に絶えず注意して居る職工やが、一番邪魔になるのです。下手にやれば騒がれる。斂蛇の轍を踏む。

其處で、小手調べに、鶴見工場へ移轉するものだけの中から十八名だけ、餓首してみただけです。工場も違ふことだし、職工の一部だけのことだから、騒がれることもあるまいし、もしこれで成功したら移轉のたびごとに、そうした餓首を行つて、無自覺な労働者だけにして置いて賃金の引下げをやればまんまと行くと思つたのです。

然し物事にはすべて限度と云ふものが有る筈です。芝浦製作所が今日あるのは、その大部分を職工の血と汗とに負ふて居るのです。だから、つまり、職工の白骨や、職工家族の骸骨の上に、あの大きな工場が建つてゐるのです。

だからして、職工の立場はいつも苦しいのですそれに、現在だつて、これ以上賃金を引き下げられた日には、實際日も當てられない、悲惨な状態になるのです。

其處で、何方へ轉んでも同じことだから、皆んな一齊に起つて争議を始めた理なんです。つまり、自己防衛のために、起つた理なんです。

所で、私達の要求は見事、一蹴されて仕舞つたのです、それも容れられないやうな不当な要求でもあるのかと云ふと決してそうでないのです。

- 一、八時間制の實施——一、十八名の復職——一、今後絶対に解雇者を出さないこと、
- 一、争議に關して、犠牲者を出さないこと——一、争議中の日給を支拂ふこと、

これが全部の要求條目です。

何處の工場に行つても、相當な工場で八時間制を實施して居ない所は、現在殆んどないといふ時に、芝浦製作所は東洋に於ける模範工場だと常に會社の人達が云つてゐながら、震災前の八時間制を、震災後九時間制に延長したので、實にこれは會社の不面目であると共に、いかに私達を苦しめてゐるものであるか知れませんか。

他の條項に何んな不当な要求があるか、賢明な皆様自ら御判斷して下さい。

判斷するまでもないこゝうした要求さへも、會社は受け付けないのです。況んや不斷どういふことをして居るかは、た分りの事と思ひます。

私達がストライキしたことが、果して不当でありませうか、然し、私達がストライキの武器を持つて立つときは、餓えか死の岐路に立つてゐる最後の時だと云ふことを、常に考慮の中に入れて、判斷を下されることを希望します。

芝浦争議團本部

芝區芝浦日米自動車工場跡

芝浦労働組合事務所

芝區金杉濱町三八

大正十四年七月十九日